



さん が

第一二二二号

令和 六年

西暦 二〇二四年

孟蘭盆七月号

曹洞宗 東運寺

京都市伏見区淀新町六一八一

TEL 〇七五-六三一-二二七二

FAX 六三一-五七二五

E-MAIL sanga@tounji.net



ちょうど十年前、曹洞宗大本山總持寺において、總持寺初代住職瑩山（けいざん）禪師と、二世住職峨山（がさん）禪師の、大遠忌（だいおんき）の行事が始まりました。大遠忌とは、大本山の初代と二世住職の、五十年ごとの年回の法要です。

今年までの十年にかけて總持寺では、いくつかの行事や事業が行われてきました。

瑩山禪師は、鎌倉時代の終わりに、たくさんの優秀なお弟子さま方を育てられました。日本に曹洞宗が根付く、基礎をお作りになった方です。

そして今年は、瑩山禪師七百回忌の年に当たります。いよいよ、その十年の締めくくりです。私たちも、大本山に参拝いたします。（詳細は裏面をご覧ください）

瑩山禪師も、道元禪師と並んで、名言をいくつも残されています。

たとえば、禅の心構えについて問われたときに、「茶に逢うては茶を喫し、飯に逢うては飯を喫す」と答えて、師匠に認められています。

一読するとあたりまえのことに見えますが、そのあたりまえのこと一つ一つを、専一に行っていくことの大切さと難しさを、ここで伝えておられます。とくべつな瞬間ではない、日常のなかに人生の真実を見ようとする、とても禅らしい名言です。



調べてみると、瑩山禪師は優しいお言葉が多いようです。厳しいイメージの強い道元禪師とは、その意味でも、うまく対称になっていると言えるかも知れません。

そんな禪師の七百回忌。曹洞宗にとっても重要な年となっています。

「九月の団参」決定いたしました

以前より申し上げておりました、大本山總持寺への団参が、正式に決定しましたので、ここでご案内申し上げます。

日時 9月11日（水）～12日（木）

宿泊 ローズホテル横浜

参加費 四〇、〇〇〇円

（教区やお寺からの補助が含まれています）

新幹線で東京入り、バスで観光をして、横浜で中華料理の夕食と宿泊。大本山總持寺での七〇〇回忌法要にお参りをして、ふたたび新幹線で帰京いたします。

總持寺にお参りする機会は少ないと思います。

ぜひ、ご参加をお待ちしています。ご希望の方は、六月の末までに、お寺までお申し込みください。ご不明な点は、お寺まで遠慮なくお問い合わせください。

旅行の詳細は、このQRコードから、パンフレットをご覧ください。



七月八日

「お盆の施食会」です

あつという間に、今年もお盆がやってまいります。東運寺のお盆は、いつもの通り、七月八日（月）の法要から始まります。午前十時からご法話、十時半くらいから法要で、おおよそ十一時半には終わります。当日は薬師堂も開けます。ぜひいっしょに、お参りください。

「棚経」のご案内

今までと違う時間に、お願いしているおうちもございますが、ほぼ、例年とおなじ日程です。淀以外の方向けに同封しております。「日時のご案内」を、ご確認ください。なお、淀の方は、変更はありません。

また、徒弟がお伺いするお宅もございません。どうかよろしくお願い申し上げます。



↑ ホームページ



↑ お寺の日常

東運寺ホームページは→

京都 東運寺

検索